

2017年3月期 第2四半期決算説明会

ウシオ電機株式会社

2016年10月31日

＜免責事項＞本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

USHIO

- 2017年3月期第2四半期は**減収減益決算**
- 7月29日公表の**上期公表値を上回り着地**
- **通期の業績予想は据え置き**
- **現行の中期経営計画を見直し**
(新中期経営計画は、当第4四半期決算発表時に公表予定)

- I. **第2四半期業績概況**
- II. 今後の見通し
- III. 映像装置事業について
- IV. 中期経営計画について
- V. 参考資料

今回の決算発表のポイント

連結売上高は前年比6.9%減の825億円
連結営業利益は前年比52.0%減の31億円となり減収減益決算

- 7月29日公表の上期公表値は上回り着地 -

売上高 : 825億円 (前年比▲60億円、6.9%減)

✓ 円高により約▲70億円減収

営業利益 : 31億円 (前年比▲34億円、52.0%減)

✓ 円高による▲11億円の減収に加え映像装置の収益性が悪化

親会社株主に帰属する

当期純利益 : 18億円 (前年比▲36億円、66.1%減)

✓ 「為替差損」「事業構造改善費用」及び前期は「固定資産売却益」「負ののれん」の特別利益を計上

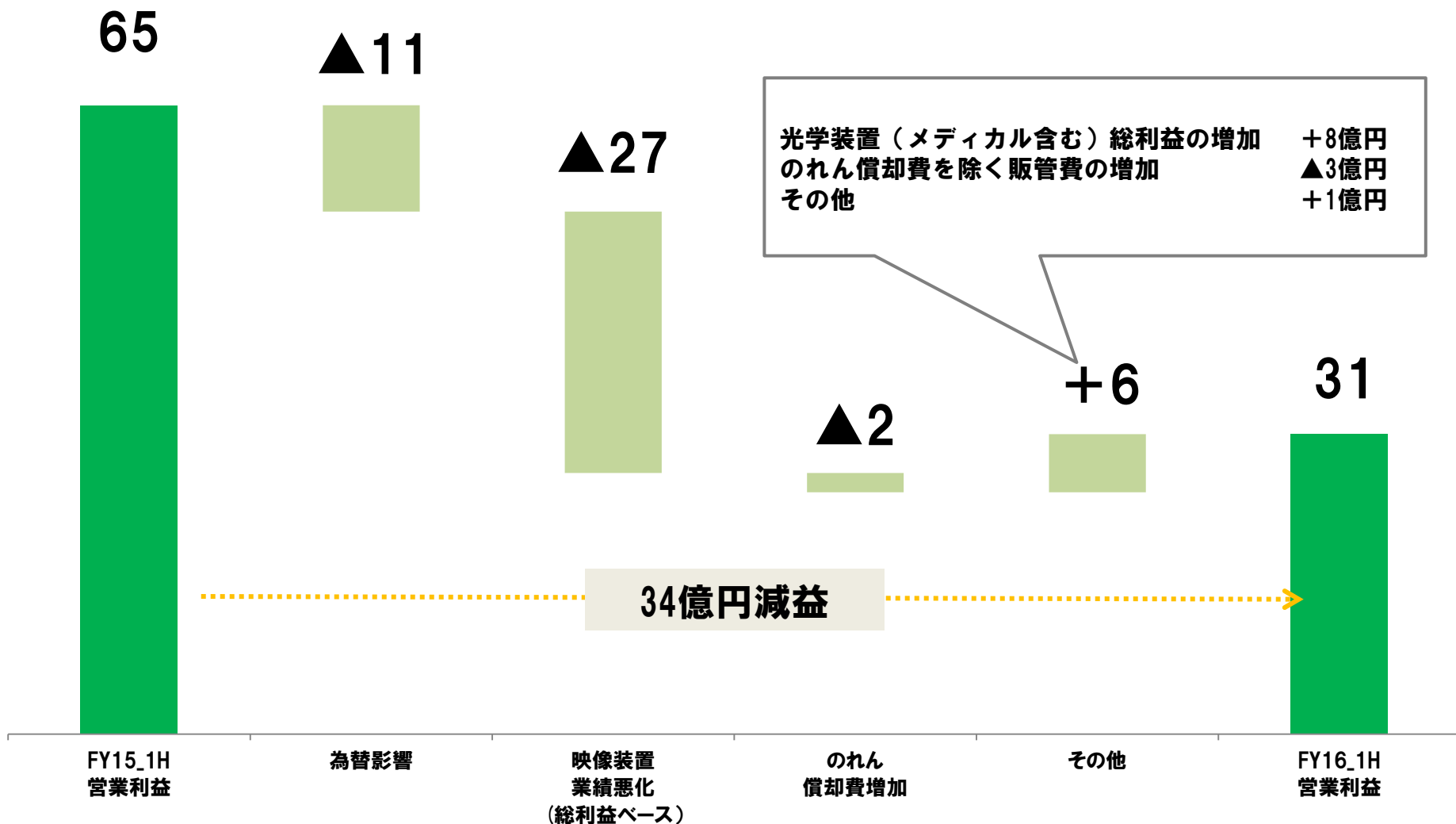
※為替レート(2016年度第2四半期): 1ドル=107円

2016年度 1H実績

(億円)	2015年度 1H実績	2016年度 1H実績	前年度比		1H計画 (7.29公表)	達成率 (%)
			増減	%		
売上高	886	825	▲60	▲6.9	800	103.2
営業利益	65	31	▲34	▲52.0	25	125.6
営業利益率 (%)	7.4	3.8	▲3.6P	-	3.1	-
経常利益	75	30	▲44	▲59.3	25	123.3
親会社株主に帰属 する当期純利益	54	18	▲36	▲66.1	15	123.5
EPS (円)	42.14	14.46	▲27.68	▲65.7	11.72	-
為替レート (円)						
USD	122	107	▲14	-	105	-
EUR	135	120	▲14	-	115	-

対前年同期比 営業利益増減分析（1H）

（億円）



注：「映像装置業績悪化」～「その他」の要因は、為替影響を除いた金額。

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

(億円)		2015年 1H実績	2016年 1H実績	YoY		通期 計画 (7.29公表)	進捗率 (%)
				増減	%		
装置事業	売上高	479	452	▲26	▲5.5	950	47.7
	営業利益	5	▲11	▲16	-	-	-
	営業利益率 (%)	1.1	▲2.5	▲3.5P	-	-	-
光源事業	売上高	391	359	▲32	▲8.3	730	49.2
	営業利益	59	40	▲19	▲32.2	-	-
	営業利益率 (%)	15.3	11.3	▲4.0P	-	-	-
その他	売上高	15	13	▲2	▲14.6	20	65.2
	営業利益	0	▲0	▲0	-	-	-
	営業利益率 (%)	1.8	▲0.2	▲2.0P	-	-	-

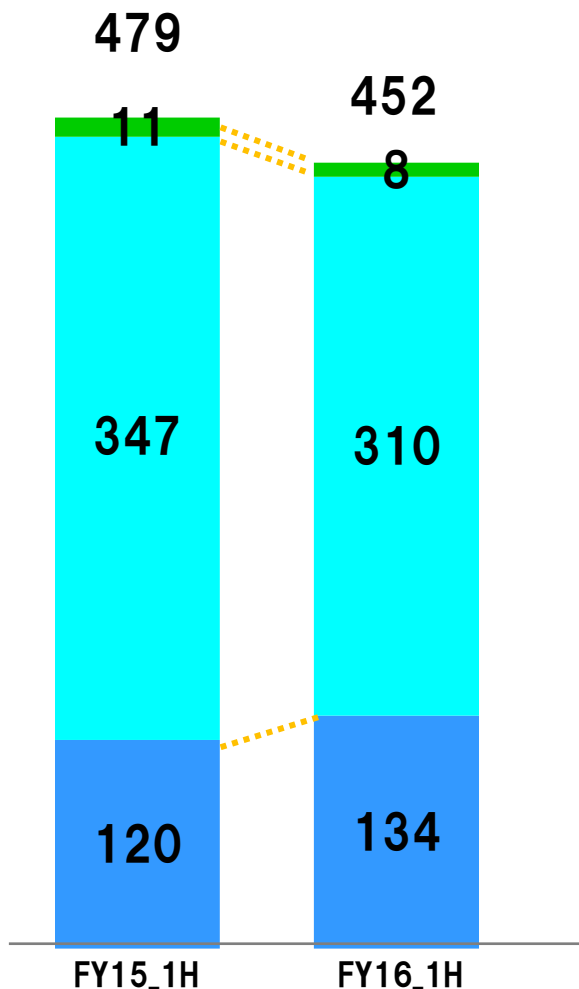
注：売上高は外部顧客への売上高を記載、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

装置事業セグメント概況（売上高）

《1H 前年比較》

売上高

(億円)



FY15_1H

FY16_1H

注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

装置
事業
合計

売上高
452億円
前期比 ▲26億円
▲5.5%

1Hの概況

中国液晶投資の影響で一部光学装置は好調に推移。映像装置は為替影響と事業環境変化により減収が継続。

照明装置
他

8億円
前期比 ▲3億円
▲28.5%

✓ 大型案件減少により29%減収。

映像
装置

310億円
前期比 ▲36億円
▲10.6%

✓ シネマ：+6%。DCP販売台数は増加。

✓ 一般映像：▲22%。中小型プロジェクターを中心に販売減。

光学
装置

134億円
前期比 +13億円
+11.5%

✓ UV装置：▲3%。製品ミックスの影響により微減収。

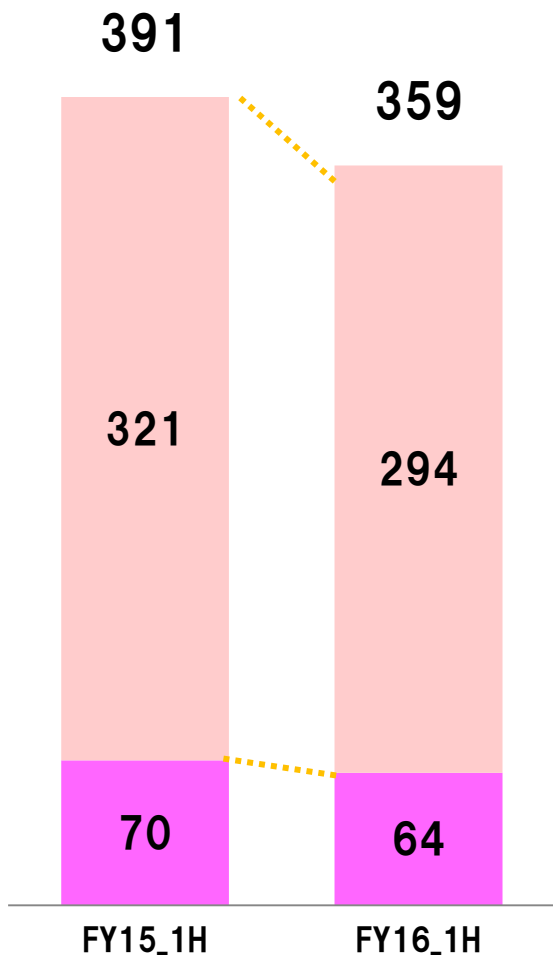
✓ キュア装置：+65%。中国向け液晶関連装置の過去分売上の検収により増収。

光源事業セグメント概況（売上高）

《1H 前年比較》

売上高

（億円）



FY15_1H

FY16_1H

注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

光源
事業
合計

売上高

359億円

前期比 ▲32億円
▲8.3%

1Hの概況

円高の影響を受け、ほぼ全ての製品で減収するもシェアは維持。

放電
ランプ

294億円

前期比 ▲26億円
▲8.4%

✓ UVランプ: ▲6%。中国液晶投資による恩恵が一部あるものの為替影響により減収。

✓ シネマ用ランプ: ▲13%。為替影響により減収。

✓ データプロジェクター用ランプ: ▲12%。為替影響により減収。

ハロゲン
ランプ

64億円

前期比 ▲5億円
▲7.9%

✓ ▲8%。為替影響に加えOA用は新興国の需要減などにより減収。

-
- I. 第2四半期業績概況
 - II. 今後の見通し**
 - III. 映像装置事業について
 - IV. 中期経営計画について
 - V. 参考資料

2016年度 2Hおよび通期の業績予想について

2016年度通期業績予想は据え置き

(億円)	(A) 通期 計画 (7.29公表)	(B) 1H 実績	(C) 2H 予想 (A) - (B)	(C) - (B)
売上高	1,700	825	875	+50
営業利益	90	31	59	+28
営業利益率 (%)	5.3	3.8	6.7	+2.9P
経常利益	100	30	70	+40
親会社株主に帰属する 当期純利益	70	18	52	+34

(億円)

映像装置 (対策効果含む)	+25
その他	+3
合計	+28

(億円)

営業利益の増加	+28
為替差損の減少	+10
その他	+2
合計	+40

為替前提レート (通期)

USD	105円
EUR	115円

為替感応度：1円変動による影響額 (通期)

	売上高	営業利益
対 USD	約 10 億円	約 1.5 億円

2016年度 2Hおよび通期の業績予想 サブセグメント別売上高

(億円)		(A)	(B)	(C)	(C) - (B)	2H予想	
		通期 計画 (7.29公表)	1H 実績	2H 予想 (A) - (B)			
売上高	装置事業	映像装置	650	310	340	+30	✓ 映像装置はDCPの単価下落による売上減が継続するも、販売台数は計画を上回り推移
		光学装置	280	134	146	+12	
		照明装置他	20	8	12	+4	✓ 光学装置は、中国液晶投資の継続及びOLEDの需要に支えられ堅調
		小計	950	452	498	+46	
	光源事業	放電ランプ	610	294	316	+22	✓ 放電ランプはシネマランプが年末商戦に向け拡大傾向
		ハロゲンランプ	120	64	56	▲8	
		小計	730	359	371	+12	
	その他	産業機械他	20	13	7	▲6	
	合計		1,700	825	875	+50	

-
- I. 第2四半期業績概況
 - II. 今後の見通し
 - III. 映像装置事業について**
 - IV. 中期経営計画について
 - V. 参考資料

■ 業績改善策

リストラクチャリング実施による固定費削減

- 人件費削減（新規採用の凍結、人員削減、賞与減 等）
- その他経費削減（IT経費、広告宣伝費等の削減 等）

販管費の
通期削減効果
（対前年同期比）

23億円の見込み

※為替影響除く

人員削減は概ね
計画通り完了
（上期末時点）

■ 市場環境の変化への対応

①生産体制見直しによる生産コスト低減加速（前年比 10%以上の削減）

- カナダと中国の生産比率を6:4から5:5へ

②製品、地域、分野別にビジネスモデル見直しによる収益力強化

- 採算性の低い地域で販売代理店方式を導入し管理コストを削減など

③強みのハイエンドプロジェクター強化

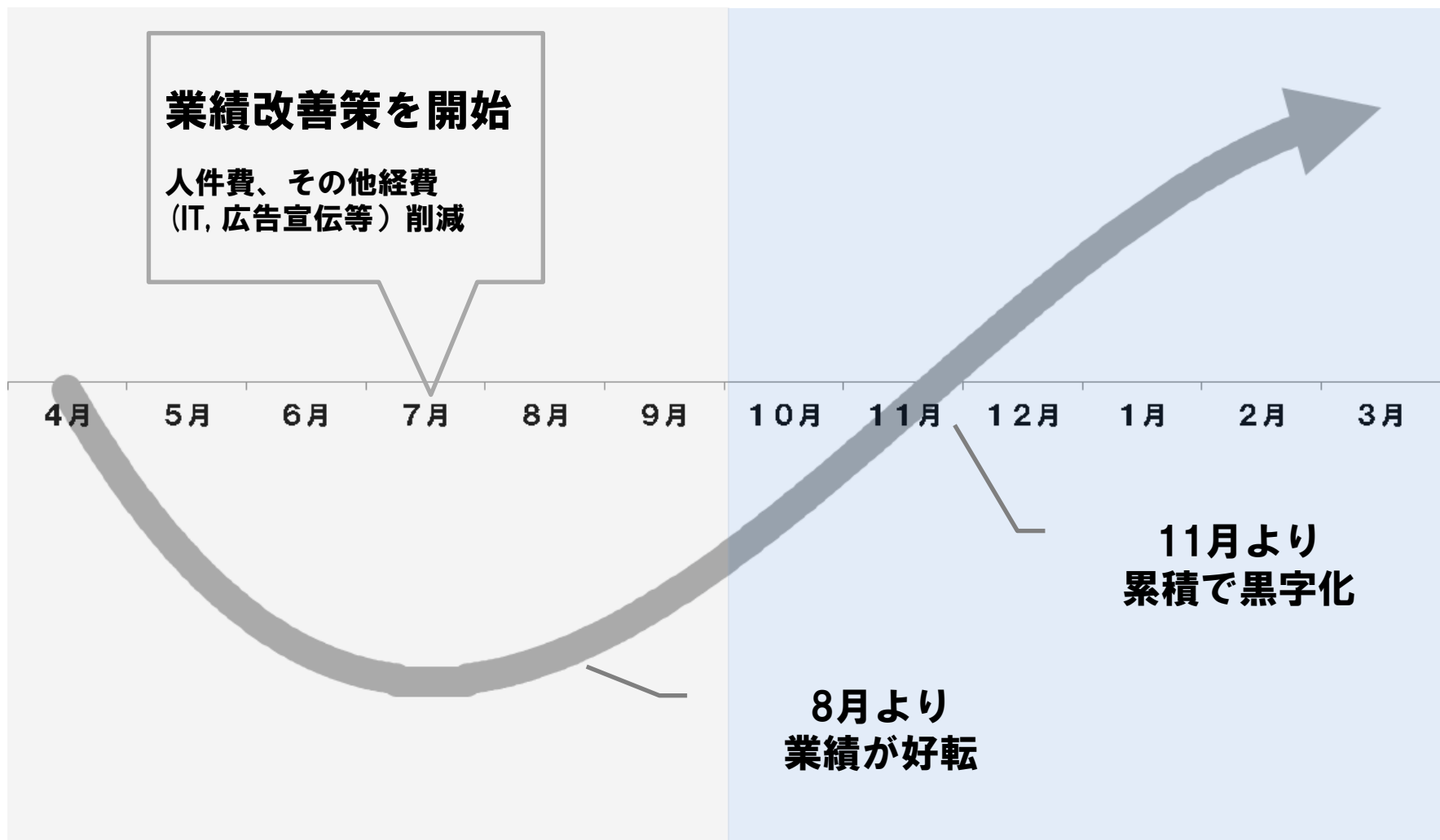
- シネマ分野で優位性を維持するため、強みのハイエンド領域を強化
- ローエンドおよびミドルレンジ領域の在庫水準を見直したうえで、ラインナップを強化

④トータルソリューションビジネス拡大の着実な推進

対策
効果は
来期以降

参考：クリスティの 当期営業利益推移（見込み）

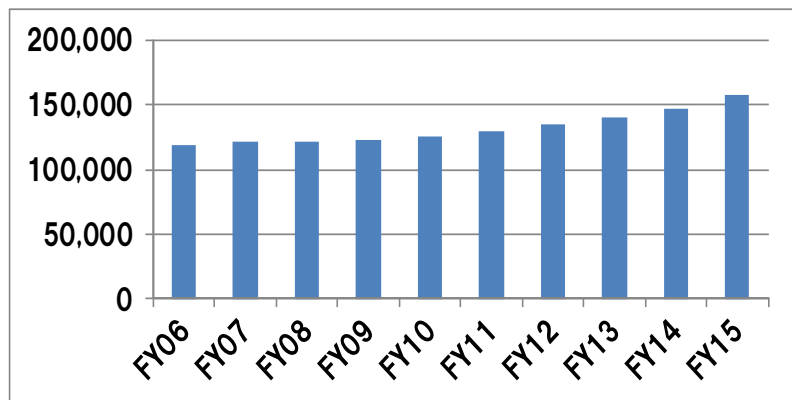
業績改善策の実行により下記のとおり改善の見通し



シネマ事業の事業環境

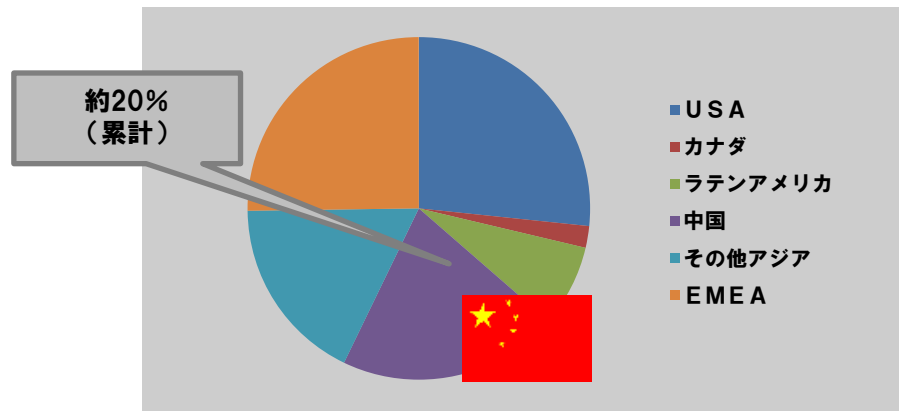
■全世界のシネマスクリーン数 15.7万

デジタル化率 99%



※2015年12月現在

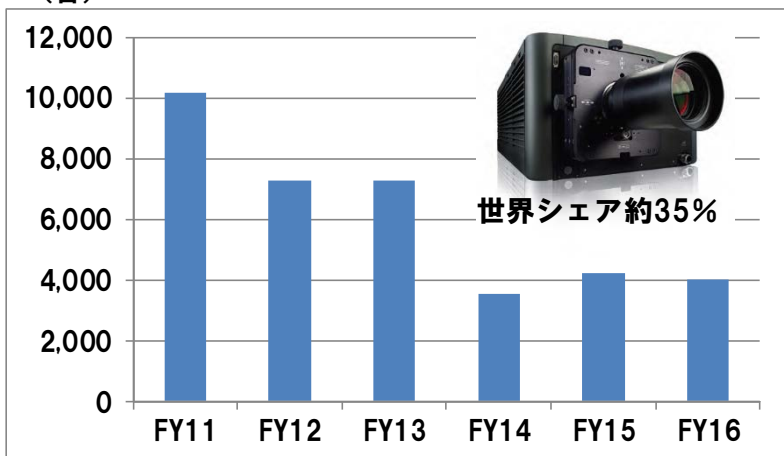
■地域別シネマスクリーン割合



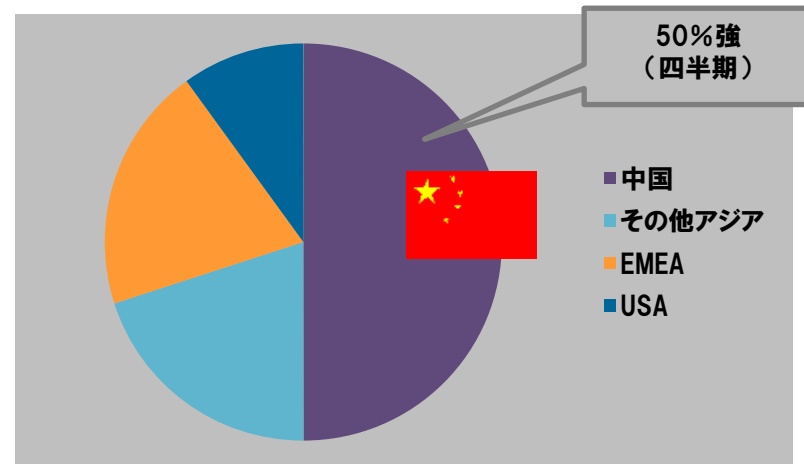
※2015年12月現在

■クリスティのDCP販売推移 (FY11以降)

(台)



■クリスティのDCP地域別販売先 (2QFY16)



1Q決算発表時にご説明した事業環境の変化ーシネマ事業

販売競争激化の要因：

- ・ 中国独自の理由による蛍光体レーザープロジェクターの急速な販売拡大
- ・ ランププロジェクターへの価格値下げ要求激化
- ・ シェア維持のためマージン低下



対策：

- ・ 蛍光体レーザープロジェクターの拡販
- ・ 中国などでRGBレーザープロジェクターを拡販（ドルビーシネマと提携）



※全世界のRGBレーザープロジェクター-台数
約230台（内、クリスティシェア約65%）
※全世界のRGBレーザープロジェクター-用スクリーン
約110スクリーン
(2016年6月現在)



ドルビーシネマの
設置サイト数
(全世界)

26

(2016年6月23日現在)

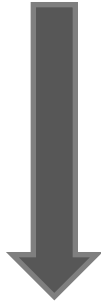


200~300

(3年後)

1Q決算発表時にご説明した事業環境の変化 — 一般映像事業

販売競争激化の要因：

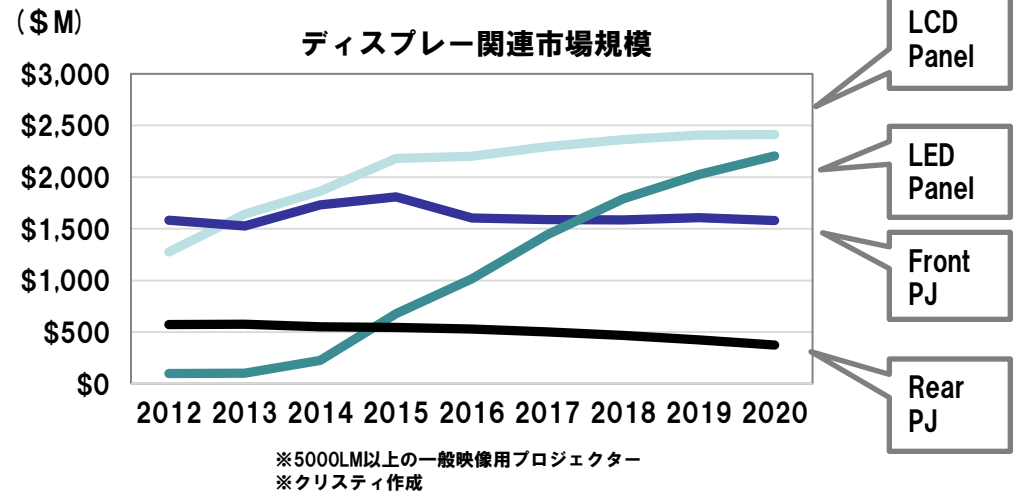


- LED、LCDパネルの浸透（パネルの狭ピッチ化）
- 各プロジェクターメーカーが蛍光体レーザータイプを多数発表

- 販売競争激化によりマージン低下

対策：

- 蛍光体レーザープロジェクターの拡販（ラインナップ増強）
- RGBレーザーの拡販（産業用VR、テーマパークのアトラクションなど）
- LED、LCDパネルの拡販



クリスティのソリューションビジネス

クリスティおよびクリスティのグループ会社により
顧客にワンストップソリューションを提供



プロジェクショ
ンマッピングな
どのコンテンツ
制作

メンテナンスサービス



プロジェクター
および周辺機器

Hardware



Content

Software

ソフトウェア



CHRISTIE

ロビー広告

Service

Advertising



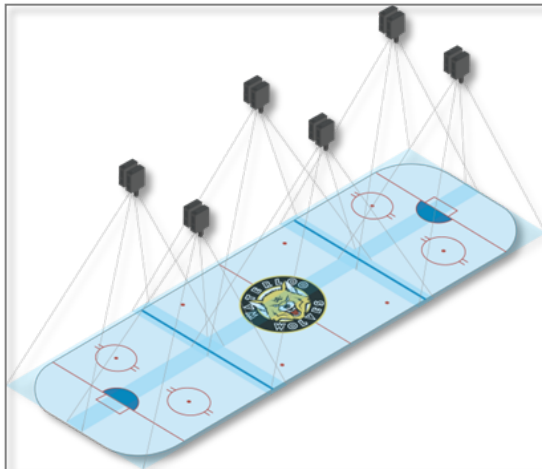
クリスティのソリューションビジネス（アイスプロジェクションマッピングの例）



Madison Square Garden, NY



Pepsi Center, Denver



Air Canada Center, Toronto

-
- I. 第2四半期業績概況
 - II. 今後の見通し
 - III. 映像装置事業について
 - IV. 中期経営計画について**
 - V. 参考資料

当社を取り巻く事業環境が大きく変化

円高の継続（前提：1US\$ = 115円 → 現状：1US\$ = 105円）
映像装置事業：販売競争の激化

2019年3月期を最終年度とする現行の中期経営計画
業績目標（売上高：2,300億円、営業利益：200億円）の達成は困難

現行の中期経営計画見直し
⇒ 定量目標：取り下げ、定性目標（施策）：継続

当下期優先施策

- ・業績対策の着実な実行
- ・通期業績目標の達成
（売上高1,700億円、営業利益90億円）

+

現行施策の継続

- ・新たな成長機会の追求
- ・ROE8%以上

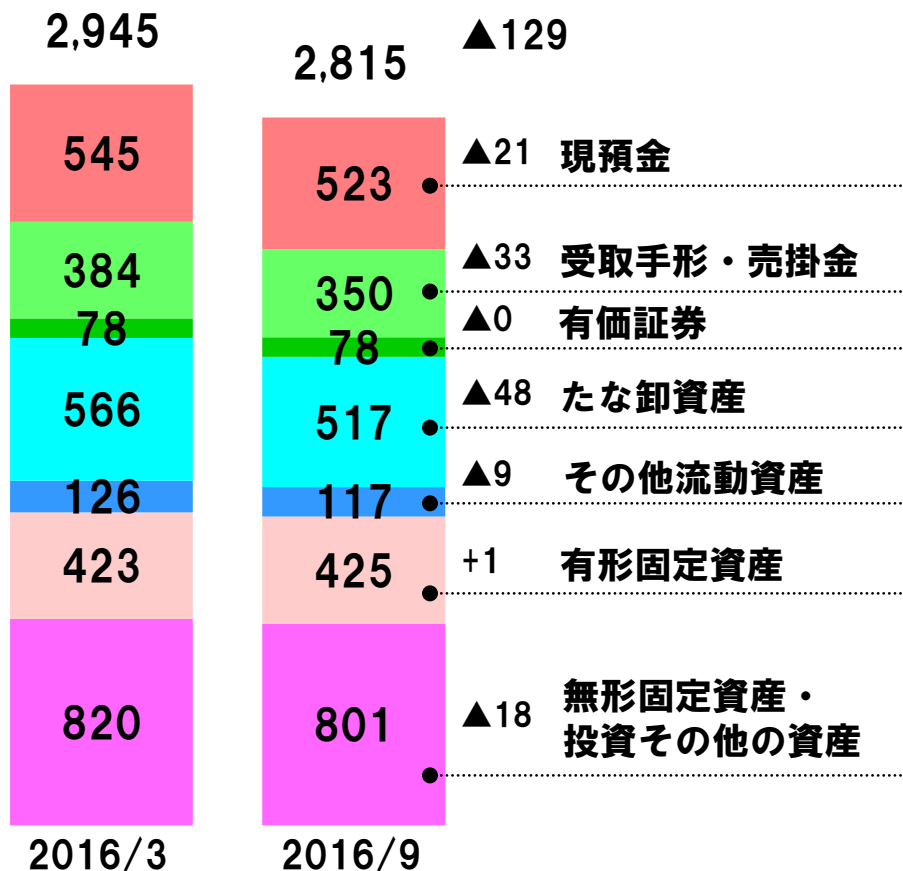
来期以降の持続的な成長

※なお、これらの対策効果を含む新中期経営計画については、2017年3月期の業績確定後、今期第4四半期決算説明会にて発表予定

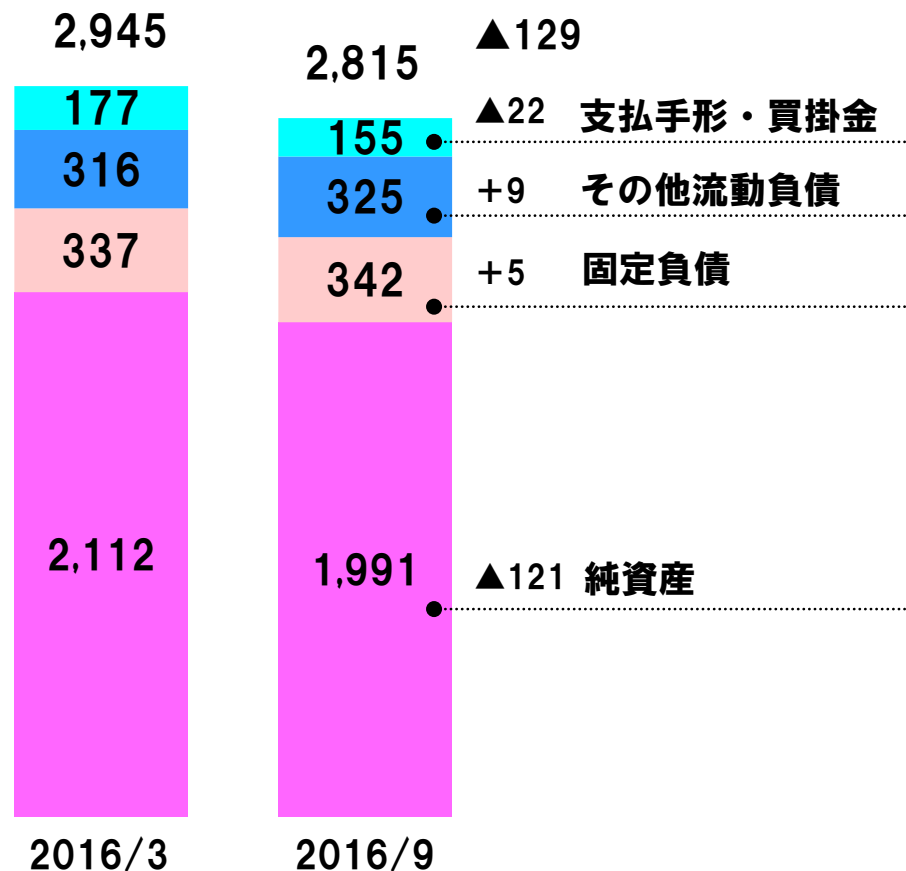
-
- I. 第2四半期業績概況
 - II. 今後の見通し
 - III. 映像画像事業について
 - IV. 中期経営計画について
 - V. **参考資料**

参考 : BS

◆資産 (億円)



◆負債・純資産 (億円)



●回転月数 (ヶ月)

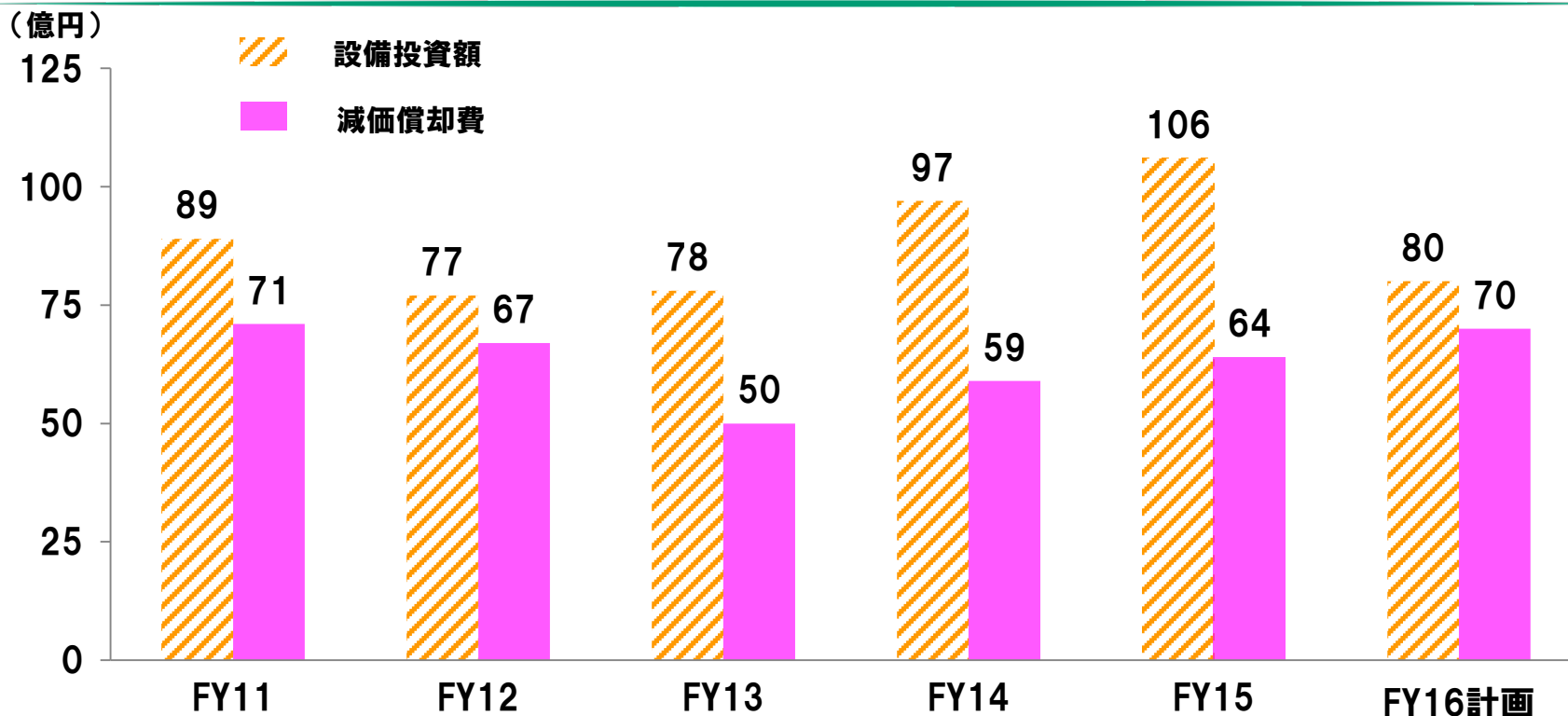
売上債権
たな卸資産

	2016/3	2016/9
売上債権	2.6	2.7
たな卸資産	3.8	3.9

●自己資本比率 (%)

	2016/3	2016/9
自己資本比率 (%)	70.9	69.9

参考：設備投資額・減価償却費

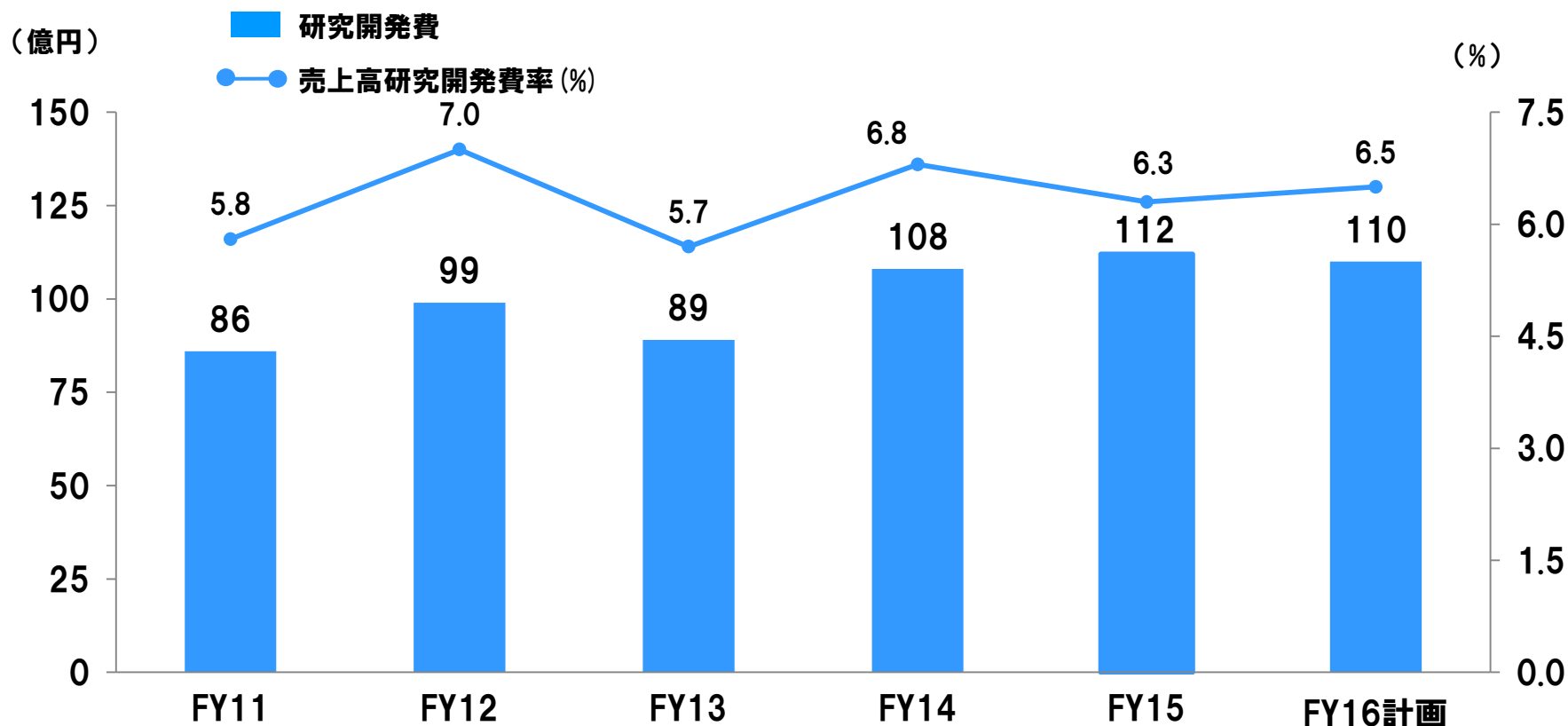


(億円)	2015年度 1H実績	2016年度 1H実績	前年度比	
			増減	%
設備投資額	30	44	+13	+46.1
減価償却費	31	32	+1	+3.8

注1. 設備投資額は「有形固定資産」+「無形固定資産」。ただし、「のれん」は除く。

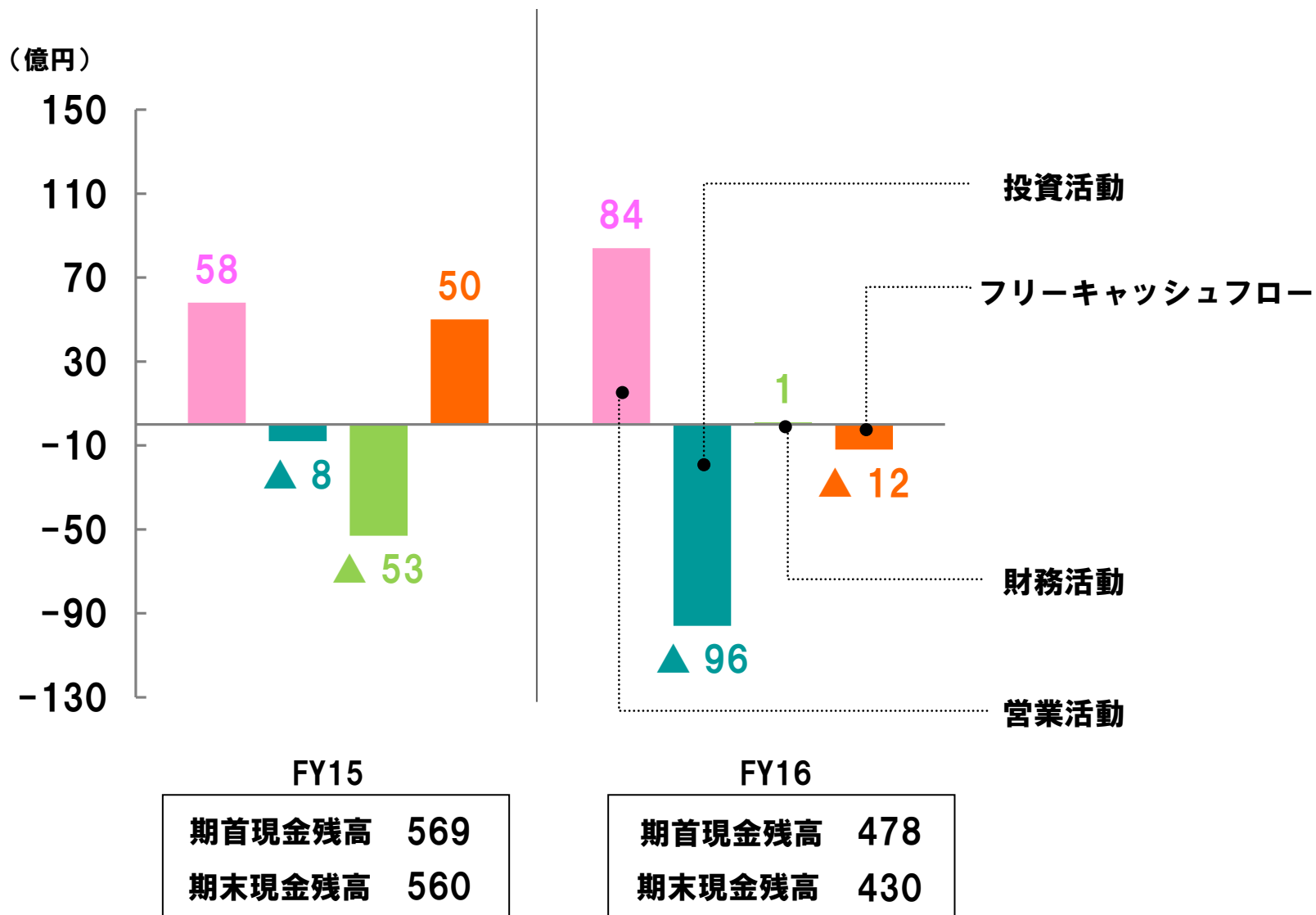
注2. 設備投資額に含まれない「のれん」増加額 FY15_1H:なし、FY16_1H:4億円。

参考：研究開発費



(億円)	2015年度 1H実績		2016年度 1H実績		前年度比	
					増減	%
研究開発費	53	50			▲2	▲4.4
売上高研究開発費率 (%)	6.0	6.1			▲0.2P	-

参考：キャッシュフロー《1H》



参考：1H営業外収支、特別利益/特別損失

(億円)	FY15	FY16	YoY
営業外収益	12	12	+0
受取利息	3	3	▲0
受取配当金	5	6	+0
為替差益	3	-	▲3
その他	0	3	+3
営業外費用	2	13	+10
支払利息	1	1	+0
為替差損	-	10	+10
その他	1	1	+0
営業外収支	10	▲0	▲10

(億円)	FY15	FY16	YoY
特別利益	16	8	▲8
固定資産売却益	10	0	▲10
投資有価証券売却益	-	7	+7
負ののれん発生益	5	-	▲5
関係会社清算益	0	-	▲0
特別損失	▲0	▲7	▲6
事業構造改善費用	-	▲5	▲5
その他	▲0	▲1	▲0

参考：直前四半期比較

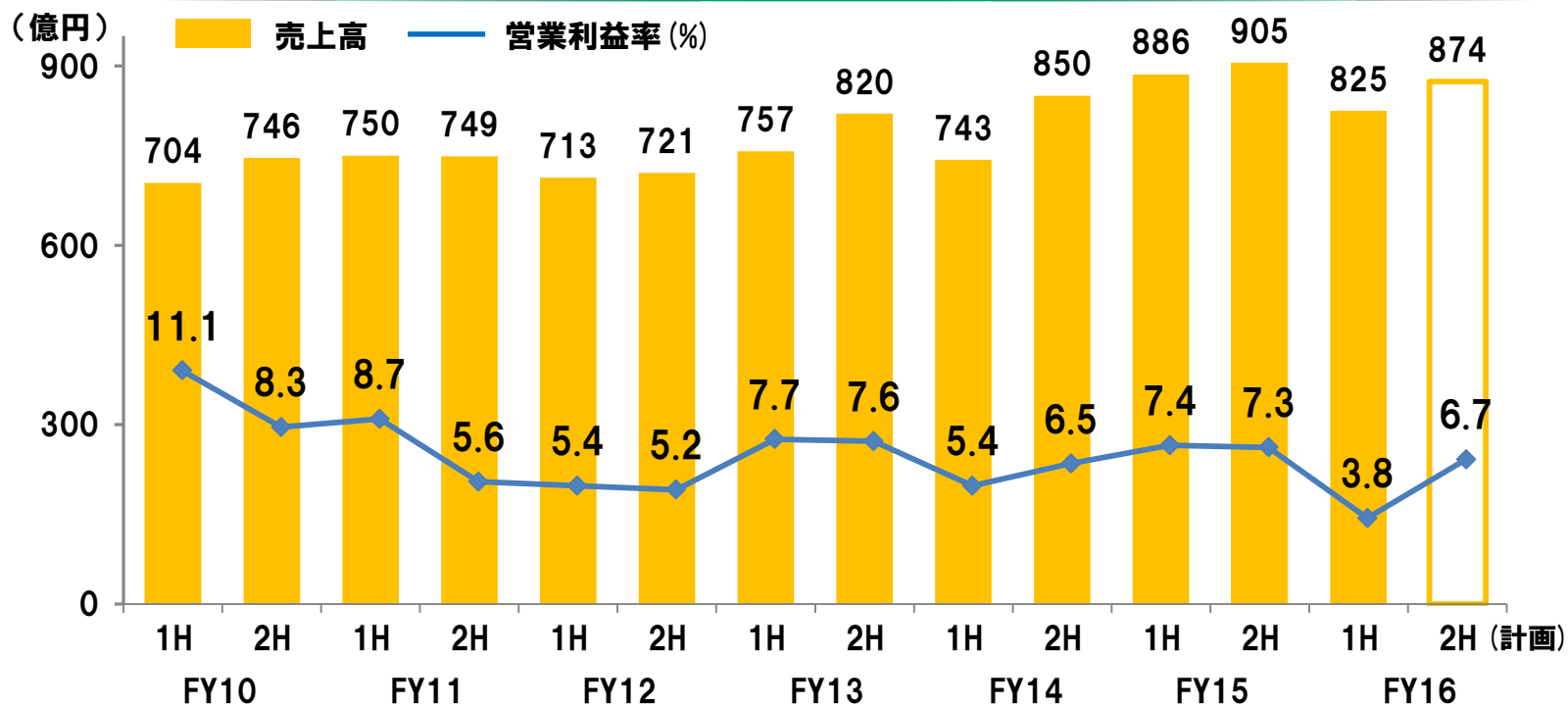
《四半期損益比較》

(億円)	FY16	FY16	QoQ	
	1Q	2Q	増減	%
売上高	399	425	+25	+6.4
営業利益	9	21	+11	+120.6
営業利益率 (%)	2.4	5.1	+2.6P	-
経常利益	4	26	+22	+513.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	1	16	+15	+960.5
EPS (円)	1.24	13.24	+13.2	+1064.5
為替レート (円)				
USD	111	104	▲7	
EUR	125	115	▲10	

《セグメント別比較》

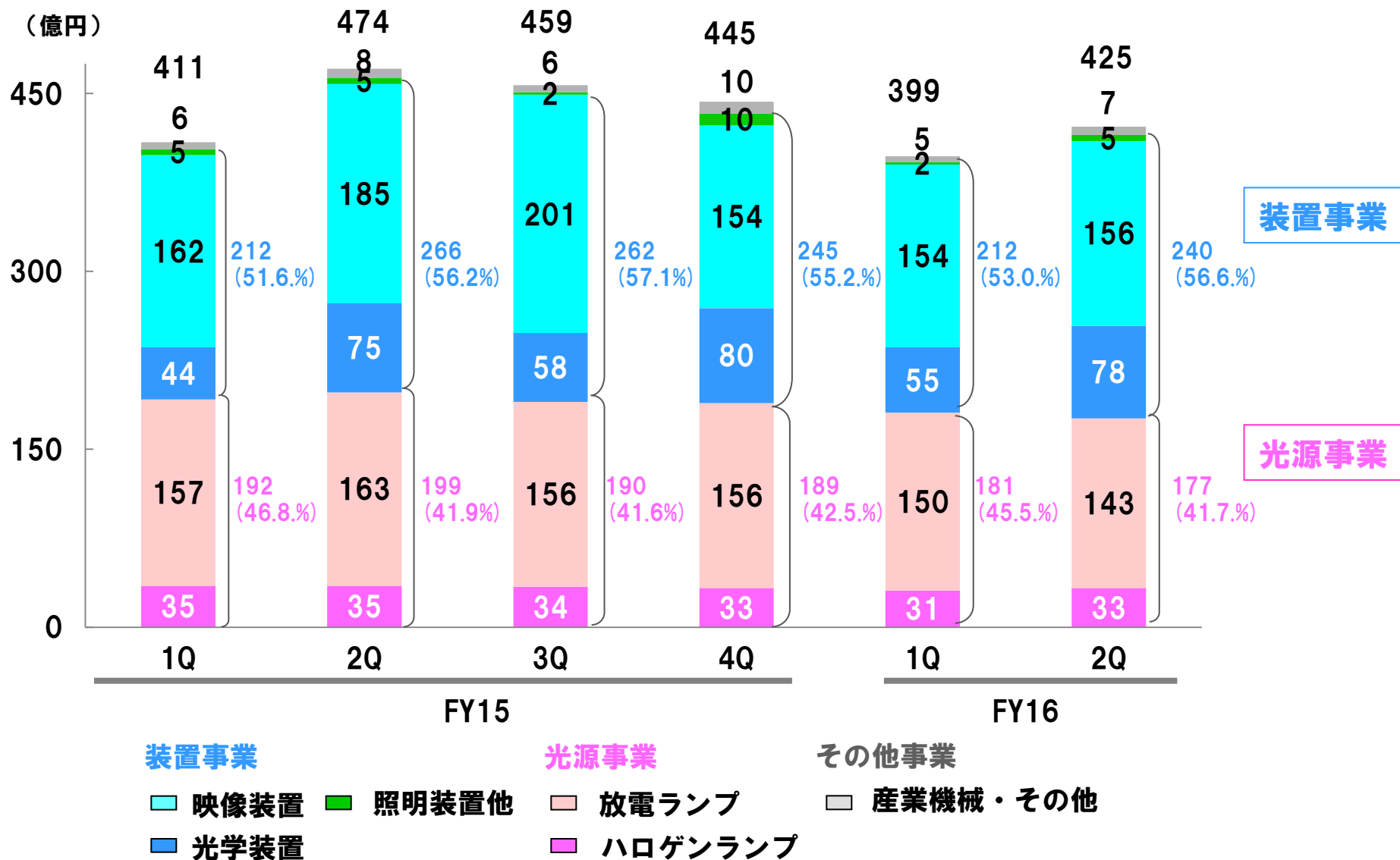
(億円)	FY16	FY16	QoQ	
	1Q	2Q	増減	%
装置事業				
売上高	212	240	+28	+13.6
営業利益	▲7	▲3	+4	▲53.1
営業利益率 (%)	▲3.6	▲1.5	+2.1P	-
光源事業				
売上高	181	177	▲4	▲2.6
営業利益	17	23	+5	+31.8
営業利益率 (%)	9.6	13.0	+3.4P	-
その他				
売上高	5	7	+1	+22.5
営業利益	▲0	0	+0	▲185.4
営業利益率 (%)	▲3.3	2.3	+5.7P	-

参考：半期業績推移

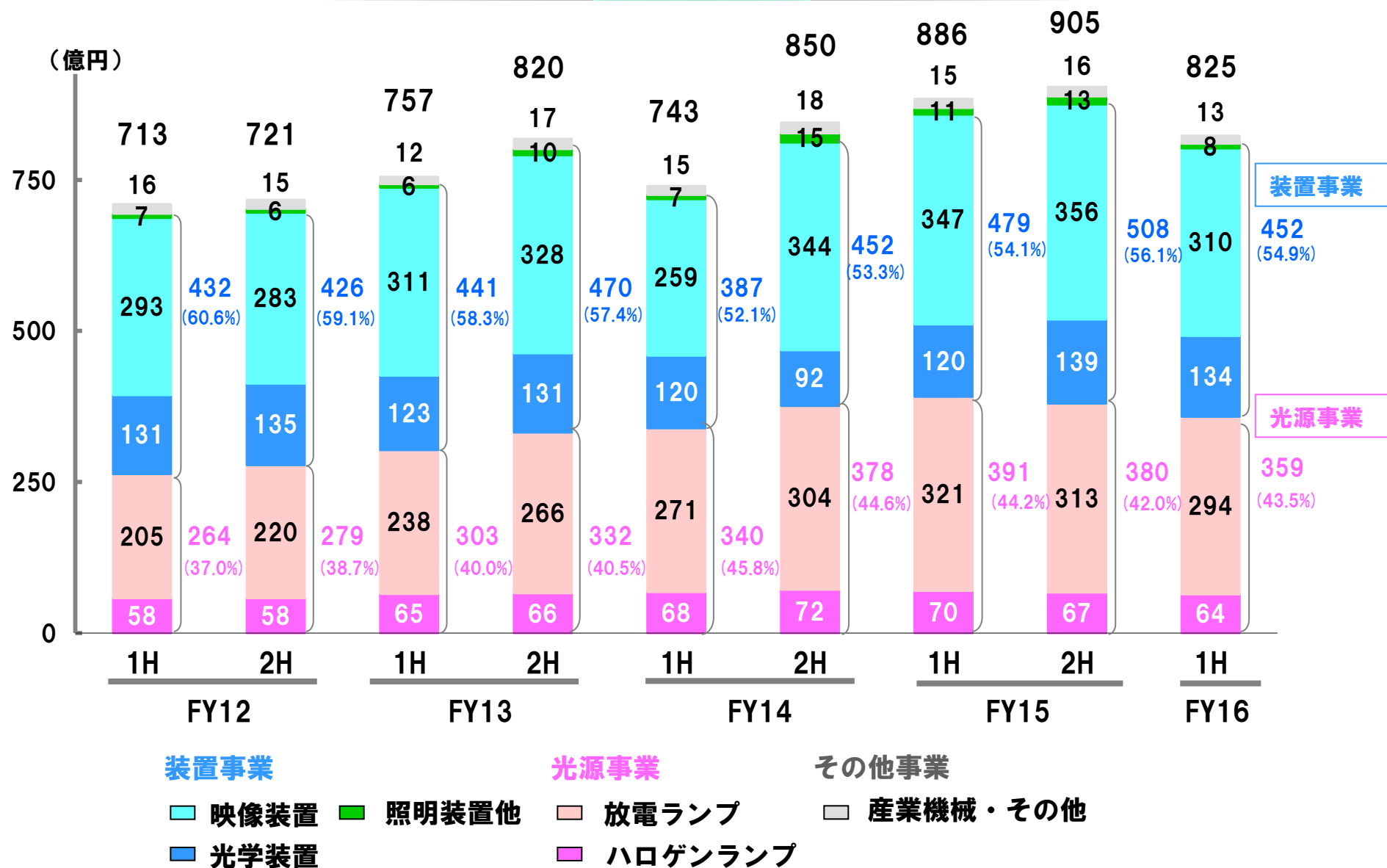


	FY10		FY11		FY12		FY13		FY14		FY15		FY16	
	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H (計画)
売上高	704	746	750	749	713	721	757	820	743	850	886	905	825	875
営業利益	78	61	65	41	38	37	58	62	40	63	65	65	31	59
営業利益率 (%)	11.1	8.3	8.7	5.6	5.4	5.2	7.7	7.6	5.4	7.5	7.4	7.3	3.8	6.7

参考：サブセグメント別売上高 《四半期比較》



参考：サブセグメント別売上高 《半期比較》



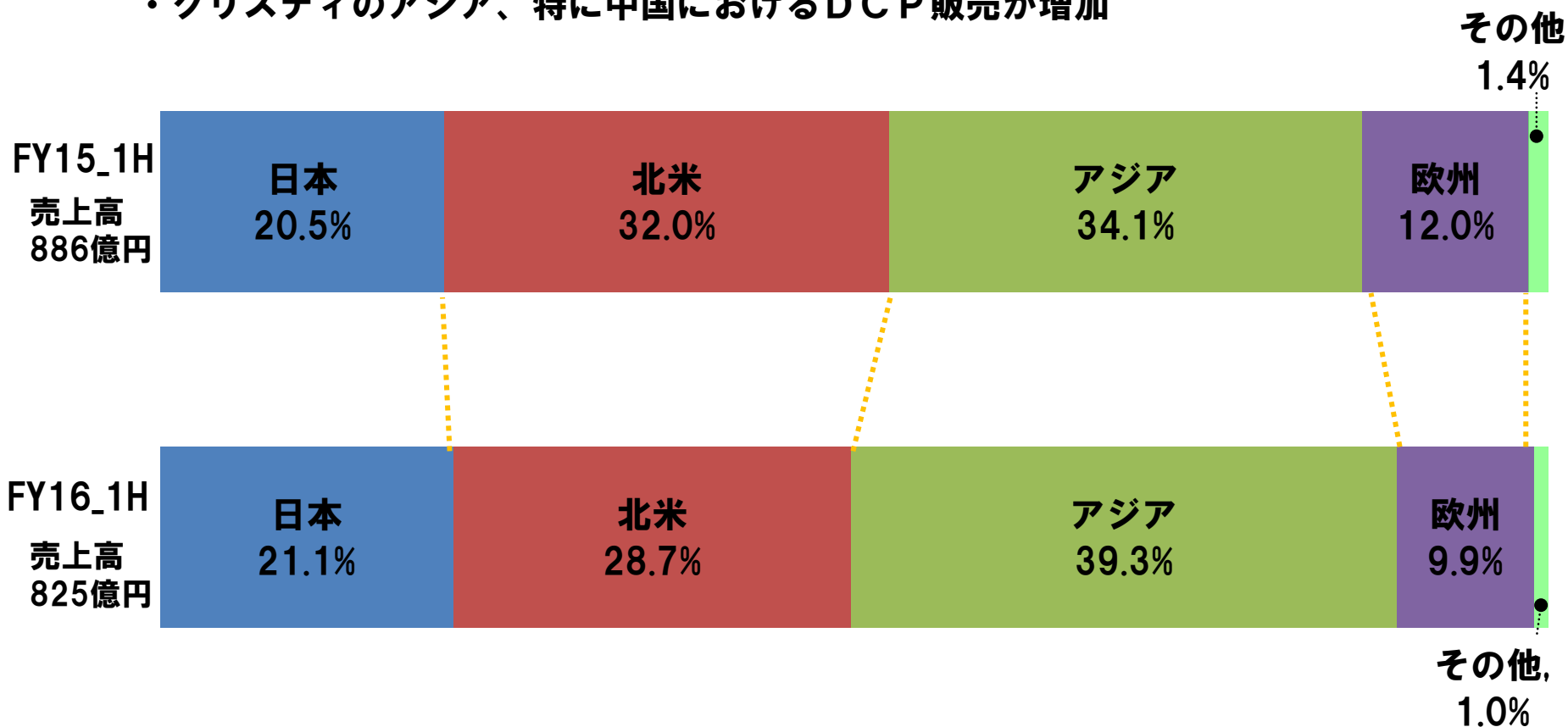
参考：地域別売上高比率《1H》

[北米・欧州]

- ・円高
- ・クリスティの主に一般映像装置の販売が減少

[アジア]

- ・中国での液晶製造用装置の増加
- ・クリスティのアジア、特に中国におけるDCP販売が増加




参考：自社株買いの状況

		金額	株数	期間
2015年度	実績	20.0億円	1,138千株	平成27年5月12日～ 平成27年6月10日
	実績	9.6億円	640千株	平成28年2月1日～ 平成28年4月8日
2016年度	実績	8.6億円	670千株	平成28年5月12日～ 平成28年6月13日
	公表	20.0億円	1,500千株	平成28年8月1日～ 平成29年2月28日

9月30日時点で40千株取得

参考：ウシオグループ光源別特徴

	ランププロジェクター		レーザープロジェクター	
光源	超高圧水銀ランプ	クセノンランプ	蛍光体レーザー	RGBレーザー
				
ルーメン	2,000～5,000 (多灯式～30,000)	8,000～35,000	5,000～15,000	20,000～60,000
用途	<ul style="list-style-type: none"> 一般映像（オフィス、家庭、教育用データプロジェクター） シネマ（多灯） 	<ul style="list-style-type: none"> シネマ 一般映像 	<ul style="list-style-type: none"> シネマ（中国など） 一般映像（ホール、イベントなど） 	<ul style="list-style-type: none"> レーザーシネマ（Dolby Cinemaなど） 一般映像（産業用VR、テーマパークのアトラクションなど）
価格	低	中～高	中～高	高
光源寿命	中*	中～長*	中～長	長
色	△○	○	△	◎

※ランププロジェクターにおいて、一般映像では超高圧水銀ランプが、シネマではクセノンランプの方が寿命が長い場合があります。

参考：用語集

DCP	Digital Cinema Projector	デジタルシネマプロジェクター
OA	Office Automation	オフィスオートメーション
OLED	Organic Light Emitting Diode	有機EL
RGB	Red Green Blue	赤 緑 青
UV	Ultraviolet	紫外
VR	Virtual Reality	バーチャルリアリティー

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）経営企画部
(03) 5657-1007
contact@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/>